

学校園教育推進サポート事業 報告書

学 番	5301	学校名	沼垂幼稚園	園長名	青木 博子	作成者名	中村 真紀
学校教育推進サポート担当者名			中村 真紀			電 話	025-244-6379

1 実践のテーマ

幼稚園・保育園と小学校が互いに学び合う架け橋プログラムの具現化

2 テーマ設定の理由

当園では、昨年度保育・授業パイロット事業の指定を受け、近隣の小学校及び保育園とともに、互いの保育や授業における学びの情報共有とそれを踏まえたカリキュラムの作成を行った。

まず、当園の保育の充実のため、全国的な保育の動向を把握されている指導者を招いての研究保育を行い、自分たちの保育の成果と課題を確認した。園全体の保育の質的な向上、ひいては、参加した市内外の幼児教育参加者の力量向上に資することにつながった。

また、指導者からの、園及び小学校における架け橋プログラムの理念や具体にかかわる先進的指導により、園及び小学校の接続・連携について研修を深めた。子どもの探究を支え、その姿を資質・能力で語り、学びの連続性を確認しながら、実践へとつなげることができた。

今、子どもたちの多様化や感染症の蔓延の影響から小学校低学年での問題が全市的に多発している。その解決の一方策として、さらなる幼小接続・連携が求められている。現状の生徒指導的な情報連携を超え、幼小で培う資質・能力や幼小で進める探究の在り方などをどのように共有していくかが喫緊の課題となっている。新潟県の幼稚園の代表園、また、新潟市の拠点園として、子どもの探究を支える教師の保育実践を、子どもの具体と育まれつつある資質・能力を言語化し、発信していくことが使命であるとする。また、同時に小学校の学びや指導法を学び、一層の幼小接続・連携を推進することが、新潟市全体の保育の向上にとどまらず、新潟市の学校園の課題解決となり得ることから、このようなテーマを設定した。

3 実践内容

- (1) 資質・能力を育む保育の充実と、具体的な学びの履歴の作成
- (2) 各校園の実践を基にした具体的な子どもの姿による学びの履歴の共有（架け橋会議の実施）
沼垂幼稚園・沼垂保育園・沼垂小学校の校園長・担当・担任ほかのメンバーによる会議
育まれている資質・能力や探究の様相の明確化と共有
- (3) それらを踏まえた架け橋カリキュラムの作成（第1 step から第4 step へ）

4 実践計画

- (1) 資質・能力を育む保育の充実と、具体的な学びの履歴の作成
 - ① 子どもの興味・関心に応じた探究につながる教材研究（常時）
 - ② 管理職・全担任での協議による、3週間に1回の「計画タイム」「振り返りタイム」を中核としたカリキュラムマネジメントの推進
 - ア 育成すべき資質・能力を育む短期指導計画案の作成と職員全員での検討
 - イ 園で目指す資質・能力と10の姿を視点としたレポートによる保育の振り返りと職員全員での協議
 - ③ 研究保育・協議会の実施
「日本生活科・総合的学習教育学会全国大会 新潟大会」における全学級の公開保育・協議会
指導者 白梅学園大学 名誉教授 無藤 隆 様 (6月22日)

(2) 近隣小学校園との架け橋会議の実施（年3回）

- 活動のまとめりや単元における互いの指導法や育まれつつある資質・能力、子どもの学びを情報交換し、学び合う。

4月23日 架け橋会議事前説明

7月5日 第1回架け橋会議（幼稚園・保育園：植物栽培/小学校：アサガオ栽培）

10月25日 第2回架け橋会議（幼稚園・保育園：体育につながる活動（運動会）/小学校：体育）

2月18日 第3回架け橋会議（幼稚園・保育園：生活発表会/小学校：国語・算数の単独教科等）

(3) 教育課程（アプローチカリキュラム）の更新

- ① 園の目指す資質・能力の見直しと更新（学年末）
- ② 教育課程及び長期指導計画の見直しと更新（各学期）
- ③ 3学年における学びの履歴の作成、及び、学びの連続性の分析（第1stepから第3stepへのつながりの明確化）
 - 8月30日 アプローチカリキュラム会議①（前期の活動のまとめり：生き物との関り）
 - 1月7日 アプローチカリキュラム会議②（後期の活動のまとめり：運動会）
- ④ 架け橋会議での小学校の実践（第4step）を基にしたカリキュラムの見直しと指導方法の改善

5 成果と課題

(1) 資質・能力を育む保育の充実と、具体的な学びの履歴の作成

- ① 園が目指す資質・能力が育まれている子どもの割合（教師の見取りによる肯定的評価）が、前期43%から後期100%に増加した。資質・能力に基づくカリキュラムマネジメントを推進してきたことで、子どもの姿を肯定的に捉え、子ども一人一人に育まれつつある資質・能力を視点に語り合うことが常習化している。それにより、個の探究を支えようと、興味・関心に応じた環境の再構成や教師の柔軟性のある援助を工夫するようになり、園全体の保育の質的向上が図られたと言える。
- ② 各研修における新たな知見を基に、教師一人一人が自園の保育実践や子どもの実態を俯瞰することを通して、それぞれの保育観を更新した。それにより、自らやりたいことに挑戦し、自信を付けていく子ども像を共有し、園の目指す資質・能力の更新を図った。更新した資質・能力を着実に育み、小学校以降の学びの芽生えとしての豊かな体験を保障するカリキュラムの見直しは今後においても必要である。

(2) 近隣小学校園との架け橋会議の実施

- ① 年3回の架け橋会議を実施し、園及び小学校の学びを、活動のまとめりや単元における具体的な子どもの価値ある姿で語り合った。写真や動画を活用した情報交換により、探究のプロセスにおける子どもの学びの具体や指導法の具体をより深く学び合った。各園で育まれた資質・能力を共有し、園での学びが小学校の生活科及び各教科の学びへとつながっていることを互いに確認し、学び合うことができた。3回目の架け橋会議においては、小学校からの参加者は15名に上った。今後の架け橋期の充実に向けて、ボトムアップの視点で幼保小の接続・連携を図ることが期待される。

(3) 教育課程（アプローチカリキュラム）の更新

- ① 第1stepから第3step、そして第4stepへとつながるカリキュラムの更新を推進していくとともに、教師一人一人が、就学以降への長期的視野をもち、学びをつなげるための指導法を改善していくことが課題である。